

第106回全国高校野球選手権青森大会



【2回戦・八学野西―八戸工】8回裏のピンチでマウンドへ向かった主戦花部巧真（右）。直後に勝ち越しの左越え2ランを浴びた

八学野西花部ピンチで登板

「自信持った球」痛打

○：「申告敬遠は絶対に嫌だった。エースとして必ず抑えたかった」。同点で迎えた八回、2死三塁と最大のピンチを迎えた八学野西。2番手の鈴木海星に代わり、満を持してマウンドへ向かった主戦花部巧真から肩を作っていたが、甘い

が、八戸工4番の内澤珀碧に勝ち越しの左越え2ランを浴びた。「自信を持って投げた球だから悔いはない」と気丈に語った花部。「（味方が）九回に1点取ってくれた」と感謝したい」と涙をふ